



発行所

兵庫県精神薄弱者愛護協会
兵庫県育成施設保護者協議会

〒650

神戸市中央区神戸港地方口一里山
1-150

発行責任者 松山 博文

印刷所 ㈱北神折込広告社

〒651-11

神戸市北区鈴蘭台東町1丁目8-16

電話 (078) 591-4611 (代)

新春放談

今後の施設の在り方について

藤井 雅之

新春に当って今後の施設の在り方についてどうあるべきかを問題として提起してみたい。

精神薄弱法が公布されてより今まで施設は年毎に増加して、兵庫県でも二・三授産施設を加えれば九十余に及ぶ施設数となった。今後更に増加の一途を辿ることだろう。だが同じような規模と内容を持つ施設が増えることを単純に喜んではいられない。この辺りで施設の在り方について私達は種々と考えて対応について慮らねばなるまい。その詳細については後日に譲るとして、問題点をあげることにする。

一、児童施設の現状について

プレ・スクールの幼児施設の充実強化も必要であるが、学令児の在籍する児童収容施設の入所者は、養護学校と特殊学級の増加するにつれて年々減少している。施設の側としては日常生活指導に工夫努力して、小学三・四年生の最も指導効果のある時期に入所させ、一応の効果をあげれば再び家庭に復帰させると云ったように施設を福祉の社会資源として認識して活用してもらうよう訴えとと共にすべての面で格段の努力が

必要と思われる。

二、公立施設と民間施設の役割り分担について

民間施設で職員の待遇を給与面で更に良くすることは限度があり、現在の事務費の基準では随分と困難である。公民の差異が単に給与にあるのみで、全く同様の指導内容であつてよいのだろうか。この際とくと反省してみる必要がある。

生活指導員や保母のみならず、PT・OT・ST等のセラピストや判定員等各種の職員や、充実した医療機関を持ち、徹底した指導訓練を行って、訓練終了者を民間にゆだねるといったように、役割りを分担することが必要なのではあるまいか。

三、通所施設と収容施設の連携について

施設の風通しを良くして、単に家庭から施設に入所するのみでなく、通所施設から収容施設に或いは逆に収容施設より通所に移すといった各々の施設の長所を充分に発揮して指導に効果をたかめることを考えねばなるまい。このことは施設相互の理解と連携が何よりも必要であらう。

四、高令者対策について

最近では更生施設内に重度棟と並んで老人棟を設ける「はるな郷」・「オシマ・コロニー」の例もあるが、更生施設で高令者のみを入所させる「さがみ野ホーム」(神奈川県)、「青谷学園」(京都府)といった民間先行型の施設も出現するに至った。現在の法では施設の種別は更生と授産の二施設であるが第三の施設として高令者のための施設を考えねばならぬとの気運が醸されつつあるようだ。この問題は日本愛護協会としても充分に研究せねばなるまい。一部に時期尚早との意見もあるが緊急を要することと思われる。

最後に各地域毎の施設の連携についてであるが、同じような規模で、全く変らぬ指導内容を持つ施設では困ると思う。核となる施設の充実整備(医療機関とスタッフの充実)により、その地域での各施設相互の役割り分担を進めて実効をあげること考えたい。例えてみれば阪神地区における「なぐさ育成園」西播地区における「赤穂精華園」等といった施設が中核となり地区における福祉の充実を期することである。問題は多岐多様であり到底限られた紙面では無理であるが、各施設の協力により一歩一歩前進したいものである。 — 赤穂精華園長 —



「福祉の心が生かせる行政を!!」

福島 義喜

新しい年を迎えるごとに、期待と不安が入りまじった複雑な気持ちにさせられます。今年こそはきつと親の希望がかなえられる、いや、そんなことはない。甘い考えだ、との心の中での争いがたえません。いつの年になったら、文字通り、新しい年を新たな気分ですごせるのでしょうか。

我が子を学園で育ててもらおうこと十七年にもなります。父親としまして、息子を園長先生におまかせすることじたい、何とも言えない気持ちでいっぱいあります。きつと、同じ年ごろの子供と比べるからでございましょう。幾度、自分の胸を打ちたたき、なげき、苦しんだかわかりません。「ああ!何という悲しみであるか:。」と。だが、いつまでもまだえは許されないのが現実であります。痛みを痛みとしながらも歩まなければなりません。うれしいのは自分の子を学園に入れさせてもらい心に平安がもてたのであります。自分と同じ悩みにある人々と手をつなげる喜び、痛みを分かちあえる仲間、落着きをとれどし、表情が豊かになっていく息子や園児・園生のみなさん、を知るにつけ、感謝と喜びの

毎日であります。誠にありがたいことです。この気持ちは学園の保護者すべてに共通しております。私達の喜びの気持ちを大切にしていただける福祉社会の実現が待ち望まれるこのごろです。

さて、高齢化社会の到来を眼前にして、学園の子どもたちの将来が気になってしかたありません。いつの時代、どんな社会になろうとも、心身障害者が受け入れられ、生きていけるだろうか。今でも肩身のせまい思いで生活しているのに、老人が大多数を占める社会になれば:。と思うとぞっとしてきます。今のうちに何らかの手を打っておかないと、この子等に幸せはこないような気になり、あせりがでます。私の考えを幾つかあげてみます。

一、福祉の心を育ててほしい。

「地域福祉」「在宅ケア」「ふるさとづくり」など、盛んに言われ、それなりの成果が上っているのも事実です。この他にもいろいろとありますが、弱者、特に知恵おくれの人達をいたわり、助け、支える心の育成に欠けているように思われます。知恵も大事ですが、知恵の生かし方

を教える教育―持てる力を弱い人に分ち与える精神をつちかえる育て方を学校教育でどしどしと取り入れてほしいものです。

同和教育と同様に、「福祉の心」を学校はもちろんのこと、一般社会のありとあらゆるところで説かれ、教え、そして実行できる環境づくり、条件整備を行政当局にお願いしたいと念願しております。

二、福祉の心を燃やし、障害児(者)と共に生きる施設の先生方がむくわれますように。

育成会の会合のとき、学園の話がよく出ます。その中で、一番気にかかりますのは公立施設と民間施設の先生方の処遇の違いです。私達の子どもたちの育成に当たってくださっている先生方に格差があるのはどういふわけなのでしょう。聞くところによりますと、民間の施設の方が障害の重い人たちのお世話をしている。そして情熱は高いが、むくいはず、このひどい現状。いっそのこと、公立施設を民間に全部まかせてしまいい、すっきりさせたいうで職員員の資質向上と処遇の改善を図られたらよいのではなからうか。行政側及び関係者の皆さんのお知恵にゆだねたいと存じます。

三、心身障害者、特に知恵おくれの子らの将来はどうなるのでしょうか。

か。一福祉施設から社会へ出れない人たちは老人ホームへいくのでしょうか。

年を取ったら「ハイ、老人ホームへ」というわけにはいかないと思います。第一に、そんなに簡単には精神薄弱者用老人ホームはできないし施設へ入れることだけを考えても無理なことはわかっています。それではどうするのか。このところで私はいきづまるのです。私の子どもは重い障害があるので、どんなに年を取っても播磨園にお願いしたいのですが、みんなのことを考えると、それぞれ能力に見合った施設づくり就労の場の確保、各年代に即応した施設利用ができるよう、施設体系・指導体系の整備ができればよいのにと思います。園長先生は「学園とか施設に入っていると考えるな。自分の家だと思いたくない」と何回となく話してくださいます。言われるとおりの、「自分の家」がこの子らに必要なのです。生きていく場が与えられますよう、施策を構じてほしい、と行政に訴え続ける一年にします。

学園の先生方、保護者の皆さん、地域社会の人たちと手をつなぎ、この子らと共に生きる社会をつくるため、がんばりたいと決意を新たにしております。皆様方の御指導とご支援をお願い申し上げます。

通所授産施設を考える(パートI)

寺本 迪彦

私の勤務する神戸市立たまも園は精神薄弱者通所授産施設である。昭和45年に兵庫県で始めての通所授産施設として開設された。開所当時は成人施設をつくったものの入所する人がいるかどうか心配したという。

現在では神戸市内に通所授産施設5ヶ所(定員二四〇名)昭和58年に1ヶ所オープンする予定である。しかし6ヶ所になっても、毎年養護学校を卒業する人、児童通園施設を卒園する人、また就職を失敗し在宅の人を考えると施設の数が足りないのが現状である。養護学校の整備、また、通園施設が中心とした施設づくり、また最近の在宅ケア中心の処遇のなかで通所授産施設の需要が高まってくると思われる。神戸市も最大の努力はしてきているが今后内容の充実もあわせてどのように対応していくかが問題となってくる。通所授産施設を中心に問題点を考えてみたい。

1. 全国授産部会の資料の中より
1. 授産施設の目的

第18条3の目的を達成するため次の事項に配慮すること
1. 作業指導、職業訓練が中核である

2.

2. 指導、訓練にあたって安全、健康、衛生指導は不可欠である。
3. 職業人としての生活指導を重視しなくてはならない。
4. 市民生活を享受するために基礎的な文化財利用の指導が必要である。

2.

授産施設の指導、訓練目的

1. 生きるよろこびとして働くこと。
2. 能力を導き働らく内容の向上をはかる。
3. 市民としての人間関係と社会性の向上をはかる。
4. 経済生活の基礎的理解をはかる。
5. 健康管理と健康増進の理解と実践を深める。
6. 余暇利用の経験、実践を通してその方法を体得させる。

3.

入所者の道考

S 42・9・1 厚生事務次官通達

。授産施設

授産施設：中軽度
更生施設：重度
法的根拠

更生施設では重度の精神薄弱者

の処遇について欠けるところのないよう充分配慮すること。

授産施設

1. 中軽度の精神薄弱者の入所が望ましい。

2. 授産施設の他に更生施設、その他の福祉施設を併設している公立・法人立施設にあたっては、入所併考にあたって施設間の調整が可能である。

3. 授産施設のみを設置する公立・法人立施設にあつては、重度者の入所もこぼれない。

※地域や父兄の要望によつて重度者を入所させることも止むを得ないので、重度者や高令者を含めた授産施設と授産事学の在り方を求めていくべきだ。

どの通所授産施設においても有期制限をもうけておらない所は歴史が古くなれば古くなる程重度化傾向と滞留化が進んでいると思われる、たまたも園に於ても5年以上在園の園生が40名中21名で、療育手帳でA判定の人が32名いる。神戸市に於ても東西中北と地域に点在させ、すこしでも園生、保護者の負担を軽くする施設づくりをおこなっている。私は本人のまた保護者の希望を中心に通所授産施設が重度であれ受け入れる

ことについてあまり問題にしていない。園生にとってその時の状態でのような環境での生活がよいのかを第1に考えるべきだと思う。しかしおのずから限界があり今の状態が進んでいくと成長させ、自立をさせていくべき施設の役割が果たせなくなる危険がある。そのために施設の環境整備、人の配置を充分におこなつていくことが不可欠だと思う。実現のためにも保護者II育成会との連携が必要となってくる。現在全国的に共同作業場づくりがおこなわれているが、保護者の方々の意識の向上がなくてはならないのである。自分子どもさえよければよいという考えでなく全ての幸せのために。ページに限りがあり急な原稿の依頼でまとまりのない文章となつてしまったことをおわびします。

―通所授産部会長

(たまたも園長)



中堅職員研修会に参加して

社会福祉法人養徳会 いちれつ学園

保母 本庄 照江

昭和五十七年十二月十五日、神戸市立心身障害福祉センターに於て、中堅職員研修会が行われた。各施設より、四十四名の参加を得て、終始、真剣な討議がなされた。

研修会は、午前の部が分科会、午後は全体会とフォークダンスの研修という形式で行われた。

午前中の分科会では、児童収容施設・通園施設・成人収容施設・通所施設とに分かれ話し合ったのだが、どの分科会でも正午を過ぎても、熱い討議が行われていたようであり、有意義なものであった。

私は、児童収容の部に参加させて頂く。私のグループでは、最初「今後の施設の方角性と職員の役割について」という議題に添って各施設より意見が述べられる。やはり、どの施設においても児童の重度化・高齢化の問題が出されており、学校卒業後の児童についての指導なり、対応の仕方などが話し合われた。

まず、どの施設でも共通と考えられていた事は、やはり、基本的生活習慣の自立という事であった。重度児においては、衣類着脱・排

泄・歯みがき・歩行などがあげられており、その子が出来る事まで職員が補助する事は、その子を甘やかすことになり、能力を伸すことにならないので、出来るだけ一人でさせることからそういった生活習慣の自立をつけさせたい。

又、軽度児においては、障害の程度の差もあるので、一概には言えないが、程度に合った生活面での指導が必要であると思う。洗濯指導一ツを取り上げても、洗う、はす、たたむ、その衣類を管理する、という所まで、指導がなされている園もあり、又、裁縫にしても、糸通しから運針、今では、ほころびが直せるようになったという事で、それには職員の一貫した指導と根気が必要であると話し合う。

私がいつも思う事なのであるが、このように私達職員の働きかけにより能力的に指導についていける子は、職員の姿勢によりある程度伸びてくれるし、やり方もあるのだが、能力的に、A・B・Cと分けた場合、Aが軽度児、Cが重度児とした場合のこのBである。この

中間の児童の扱い方が、大変難かしいと思えるのである。能力的には重度児より高く、何か出来るのではなにか：と期待しながら、何をどのようによい方法を手さぐりしながら捜しているというのが現状である。まず、一人一人の子を深く理解し、その子の興味、関心を見つけ、そこから入って行き、その子が、どのような能力を持っているのか、何に生き甲斐を感じているのかを、見つける事が大切であると思うが、そうするには、その子の心の中に浸透していく人間関係が結ばないとダメであると思う。この子等の扱いが難しいという事は、私自身の力不足であり、勉強不足の為であると思うのではあるが：。

このように考えると、今後の指導のあり方については、より専門的な知識や、又職員の人間性など、職員の質の向上が大切だと思う。又研修等で得た知識を現場で生かす事の出来る体制も必要だと思う。

午後の全体会では、本日予定されていた、専門のアバイザーが病気の為、不参加であり、残念であった。又、各分科会から、司会と記録係からの報告が出された。

成人施設からは、年金の扱いについて。医療問題、作業の問題、実習生について等、又児童収容とは違っ

た色々の問題点や、考えていかなければならない事があるようであった。通園施設に於ては、主に食事指導

についての話し合いがなされたようであり、収容児童についても共通した問題であり、興味深く聞かせて頂く。私もこの食事指導については一ツの疑問を持っていた。食事の指導で、マナーは大切な事であり、毎日の繰り返し指導により、きちんとした食事が出来るようになるのであるから、口やかましく言う事も、必要であるかも知れない。でもそれでは子供達にとって食事は楽しいものであるだろうか：。との疑問である。子供達の一番楽しみにしている食事は、キーキー声をあげる子は、時間差をつけて食べさせる等の工夫がなされている園もあった。子供の状態を見て、発達に応じた指導が大切ではないかと話し合う。

その後は、私の園で用意した、お恥ずかしいダンスであるが、一ツは子供と一緒に踊る簡単なものと、もう一ツは職員用の楽しいダンスと、二曲皆さんに踊っていただく。ブーツや皮靴の紳士淑女も楽しい曲に乗り、リラックスして楽し気であった。ジュースで喉をうるおわせ、楽しく又、意義ある研修の一日を終える。

入所者の健康管理と給食について

(第十九回近畿ブロック精神薄弱施設職員研修会
とき 昭和五十七年十一月二十五日、二十六日 ところ 和歌山県白浜町)

赤穂精華園 看護婦 松下 英津子

入所者の健康管理と給食について

の提出議題は、兵庫県と奈良県の担当となったので第六部会の職員研修の議題として日頃より当園で感じていることを挙げました。内容は充分でないですが、各施設より意見も出され、今後更に対応策について一層の研究と実践が必要と思われました。以後その議題の項目を参考にします。

一、保健衛生について

入所者の健康管理について

(提案理由)

入所者の健康管理は何よりも重大であり、嘱託医とは緊密なる連絡により、深く留意しているものの、入所者は年を追って重度となり、意志の疎通が悪く身体的な状況を訴えることの困難な精神薄弱児(者)については何よりもそれが難しい。その多くは病状が顕著になってから気づく例が多いので早期発見と適切な健康管理についてこの問題を提案しました。

(一) 内科(小児科)的諸疾患
精神神経科の症状

(二) 歯科と口腔衛生について

(四) 諸種の伝染性疾患
肝炎について

(五) 緊急時における対応策その他

(六) 以上の問題については施設の規模入所者の年令等により、諸種の困難があるが、なおざりに出来ない事項ばかりなので、今後は年間の健康管理計画をたて、精神者の老化予防、更には環境衛生等にまで充分に配慮する必要があると思われました。

二、給食について

(一) 給食時間について

(提案理由)

給食は各施設とも栄養も、献立も、出来る限り配慮されているが、一般家庭と比べて給食時間が日課表によると朝食は八時、昼食は十二時、夕食は十七時として定めている施設が多い。この時間は短時間の入院である病院給食と同様の時刻である。

入所者の福祉を唱え処遇の向上に努め、出来る限りアット・ホームの色彩を願っているにもかかわらず、給食時間に遺憾の点がある。職員とくに給食関係者の勤務時間に格別の配慮をして、七時朝食、十二時昼食、

十八時夕食の方法を真剣に研究してみたいものです。

(二) 肥満対策について

(提案理由)

精神薄弱者には肥満者が多いが、運動量とカロリーのアンバランスがあるのではないか。

一日の運動量を計算し、それに適応した、適正な栄養量でないと、満腹感にたよったり、必要量以上に過食させて糖尿病等諸種の疾病の原因ともなるので、嗜好を考慮し、適量を考え偏食にならないようにし、先にあげた給食時間を配慮した家庭的雰囲気のあるものでありたい。

施設における処遇費の大半を占める給食は単に栄養士、調理員のみにまかせることなく園全体の問題としてあらゆる角度からの研究討議が必要であろう。

イ、一日二十四時間に要したカロリー量の集計

ロ、運動指導、作業指導における配慮

ハ、給食材料のチェック

ニ、満腹感に対する配慮等々、各施設で留意することが大切だ。

(三) 冷凍食品について

(提案理由)

冷凍食品の活用については、近時だんだんと普及してきているが、施設においても一層の研究が必要とな

っている。

給食の内容には、バラエティに富んだ献立を盛りこむには、冷凍食品は恰好のものと云えよう。しかし、それがためには次の事が云える。

イ、給食従事者の研修による能力の向上。

ロ、バラエティに富んだ献立と嗜好の問題。

ハ、零下二〇度以下に保てる食品の冷凍保管庫の設置

以上、健康の問題を項目としてあげると次のとおりである。

保健衛生管理と医学的治療

医療機関と病理検査施設との連絡

個人衛生管理表の作成

身体測定及び各種の検査

成人病管理と老化予防

環境衛生

給食管理

これらの項目は、精神薄弱児(者)施設における重要な問題であるので、入所者のために施設職員のこれらに関する研修が必要です。

近畿ブロック職員の研修会議の時間が余りにもすくなくすぎたので、もう四時間程度の時間が欲しかった。



学校生活と生活指導について

(第十九回近畿ブロック精神薄弱施設職員研修会
とき 昭和五十七年十一月二十五日、二十六日と、和歌山県白浜町)

三田谷治療教育院 保母 堀内 美由季

院児の学校教育については、昭和49年度までは、学園にある翠丘小学校が中学校課程の教育の委託をうけて、学校教育を代行し、いわゆる「みなし教育」の姿で、卒業証書だけはもらえるという方式で過して来た。昭和47年度から、中学教育の本筋を通すべきだとして派遣教員が来られるようになった。その跡をたどってみると、次のようである。

昭和47年度、土曜日だけ派遣教員1名、48年度、土曜日だけ派遣教員3名、(交代で)49年度、4月と7月に芦屋市教育委員会と精道中学と学園とで協議会を持ち、学園中学生の学校教育体制の強化充実を要望、1人だけ本校へ通学し、派遣教員1名増える。50年度、学園内に3学級開設、校舎2階全部活用、51年1月23日から中学3年生が本校へ通学、51年度、中学3年生のみ本校通学、中学1・2年生は本校の行事と交流、学園の中学3年生が精道中学3年生の修学旅行に参加、52年度、中学生は全部本校通学となる。但し、施設職員が、障害児学級の介助にはいる。54年度、質問2 中学校での授業はどうして

養護学校体制が整備されるにつれて、全入体制の維持が困難になる。55年度、入学者1人のみ、他は養護学校の中学部へ入学、56年度、入学者3人のみ、中学での施設職員の介助は不要となる。57年度、入学者1人のみ、地域の子どもは地域の学校へという考え方だけは守って行く構えにあるが、実際問題として、誰が中学に行くことになるかという点になると、難かしい問題がかわってくる。

芦屋市立芦屋高校との関係

53年から学園児が入学できるようになった。53年2人、54年2人、55年1人、56年3人、57年1人が入学した。

質問1. なぜ学園の中に小学校があるのに地域の小学校へ行っているのか?

本院の持っている考えが、地域の小学校へ通学することによって、解決されるという児童について、そのように取りはかっている。但し、その場合は幼稚園からいさせるようにしている。

質問2 中学校での授業はどうして

いるのか。

中学校では数学、国語はABCと3班にわかれて、生徒3、4人に職員がついて教えている。

音楽、学活、体育などは親学級に入

施設紹介

精神薄弱者通所授産施設 神戸聖生園

園長 金附洋一郎

神戸聖生園が恵まれた立地条件(敷地一七〇〇〇平方メートル、運動場二五〇〇平方メートル、建物八〇〇平方メートル)で五十七年四月開園以来八ヶ月を順調に経過いたしました。

一八才を越える園生は二年から三年を目標に職業訓練を通して社会へ巣立つよう職員の援助を受けております。

一般に精神薄弱者の就労は本人の気力、体力、保護者の理解と協力が欠かせない要素であるといわれますので、まず訓練科目としては、車椅子の組立て、ベビーマットのたぐみ、紙箱の加工、木工品の加工、観葉植物の育成、YWCA型はたおりに取り組み、この授産作業から働くことの持続性、意欲、自己コントロール、耐性、同僚との協調性など必要な基

る。そして、学園の行事にも、参加してもらっている。いろいろな聞かれましたが、私がわかる範囲以内で答えた。

礎訓練を受けております。

勿論「働くこと」を前提としての毎朝九時からのラジオ体操、グラウンドのランニング、腹筋一〇〇二〇回は体力増進に欠かせないものとしています。

一方生活指導面では「あいさつ、言葉かけ」を行っております。園生の六四％は言語不明瞭で自分の意志が伝えられない現状ですから根気よく「おはよう」「さようなら」「ありがとう」をくり返し訓練しています。この他授産作業のあい間に月二回の豊かな人間性を育てるためにボ



ランテニアの応援を得てフォークダンス、図工、手芸、スポーツ、茶道クラブを開いております。

職業指導、生活指導からの目標に対して現実には「てんかん発作」や他の障害を持つことより二、三年での訓練終了は困難と考えられるので、日頃の園での生活と家庭訪問での在宅調査から作製したケース記録を大事にし一〇段階評価による園生一人一人の六ヶ月、一年後の目標を定め、就労可能者に対しては企業実習と公共機関の専門評価を受け最適職場を開拓することとしました。

他方生活訓練重点者は身辺自立、買物、掃除、炊事、などの家事見習いを取りあげ家庭と協力して訓練し家庭復帰を目標として指導して参りたいと考えております。

五十七年度前半の六ヶ月を経てようやく落ちついて目標に向けてのプログラムが進められるようになりましたが、愛護協会員としてご指導下さるようお願いいたします。



精神薄弱者更生施設

三木精愛園

園長 垣口 正信

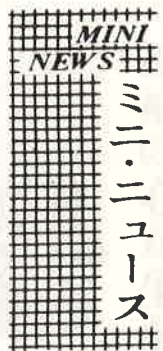
東播磨地区に県立で五番目の精神薄弱者更生施設として本年八月一日に開設、金物の町三木市神戸電鉄栗生線緑が丘駅から北へ一キロメートル、松林の小高い山を背に住宅街に隣接して一際白く鮮やかな建物、それが三木精愛園である。定員は五〇名、(一般棟三〇名、重度棟二〇名) 一二月一日現在四〇名が入所しており一般棟二三名(男子一二名、女子一名)、重度棟一七名(男子八名、女子九名)であるが五八年一月には定員一杯になる予定である。設置を待ち望まれていただけに東播磨地域を主体にして入所者を受入れておりその大半は在宅者という現状である。本園では各人の能力、身体に応じた指導として日課の中で基本的習慣の確立、社会適応性の向上を図り、また、明るく楽しい雰囲気の中で園生活が送れるよう配慮している。特に重度者については障害が多様化しているため無理のないように日課を定め、現在は主として歩行訓練を中心とした運動療法を行っている。これらの外にも季節に応じた行事を計画し生活に変化と潤いを持たせるよう

努めている。産声をあげて日浅く特筆すべきものはないが、これから特色ある園としての事業を計画し新しい施設の基盤づくりを目指している。それには、一入所者の処遇の充実、三作業指導、三買物訓練、四職員研修等を計画的に実施しており今後も継続し更に充実強化していく方針であるが、当園の課題ともいえるべき「開かれた施設づくり」「地域の中の施設」としての役割を強力に推進していきたい。既存の社会福祉施設と異なり都市型施設として、団地とは道路を隔て延長二五〇メートル余にわたり敷地が接しており、そこにはフェンスもなく幅一〇メートルのグリーンゾーンが設けられサクラ、クス、ケヤキ、イチヨウ、ヤナギ等二



〇数本の太木と、サツキ、アベリア、サザンカ等一〇〇本余の低木が植栽され、全面に芝生を張り巡らし将来は周辺の人の散策に格好の憩の場

となるであろう全く解放的な背景にある。しかしこの地に建設が決定したとき、設置に至るまでは多くの問題もあったので開園後は特に地域との交流をはかるために地域へ呼びかけて、現在では婦人会のソフトボール、老人会のゲートボールの練習に大会に定期的に開放している。また開園間もない一〇月に開催した運動会に地域へ呼びかけたところ婦人会、老人会の会員一〇〇名余の参加を得、園生と共に楽しい一日を過ごした。なお地域の当番制による遊園地、公園、排水路等の清掃に地域の人と共に参加しているが年度内に計画している行事の中で次のように地域から、各団体から園生と共に参加したいという希望がよせられており、地域との交流も遂次進展しつつある。五七年一二月、クリスマス会、婦人会、民生委員協議会婦人部、五八年二月、節分、モチツキ、自治会、三月、マラソン大会、老人会、更に今後は地域の運動会、こども会の行事等に施設を利用してもらうほか、園の行事への参加を呼びかけ、園生とのかかわりを持つことにより一層の理解を深め、園生の社会性を培うことにより「地域の中の施設」としての役割を自覚し、「開かれた施設」づくりに邁進したい。



★第十七回施設親善陸上競技大会
開催さる。

去る、昭和五十七年十月三十日（土）十時より快晴の明石公園陸上競技場において、三十八施設千四百四十名の選手に参加を得て盛大に行なわれた。開会式には、兵庫県民生部長様をはじめとして、県連合婦人会事務局長様や明石市教育委員会代表様が出席下さり大会に花をそえて下さった。又、今年度より開会を三十分繰り上げ、入場行進をしたが、実に堂々と立派に出来た事を喜んでいる。ただし、大会運営上数多くの問題点もあり、不満をもたれた参加者の方もあったと存じますが、来年度の大会に期待して頂きたい。

最後になりましたが、神戸北ライオンズクラブ、兵庫県社会体育指導者研究会、兵庫県連合婦人会、神戸新聞厚生事業団、明石おはよう体操会、神戸大学吹奏楽部、兵庫友愛基金、皆様方の物心両面にわたるご援助によりこの大会が運営できました事をご報告すると共に、感謝の意を表したいと存じます。

なお本年度の結果は次の通り。

100 m×4 児童の部			100 m×4 成人の部			ソフトボール投げ 女子			ソフトボール投げ 男子			走り幅跳び 女子			走り幅跳び 男子			1.6 km 児・女子の部			1.6 km 成・女子の部			3.2 km 児・男子の部			3.2 km 成・男子の部			種目																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
三	二	一	三	二	一	三	二	一	三	二	一	三	二	一	三	二	一	三	二	一	三	二	一	三	二	一	三	二	順位																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
三田谷治療教育院			あけぼの学園 いちれつ学園			沼谷 庄			協和学園 ゼノの村			池田 和美			吉村美代子			倉本 信彦			赤松 寿治			山崎 進			谷 幸枝			大庭 光枝			山下みゆき			狩谷 昭司			原 正夫			芦辺 道夫			松本由紀子			井本 博子			田代 容子			森脇 美江			吉村美代子			兼松 勝巳			浅野 博之			平松 広宣			新元 哲也			西畑 剛			宮園 浩一			氏名																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
									協和学園			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮			ひのものと青年寮		

★昭和五十七年度近畿施設長会議
開催さる

と き…十一月十六・十七日
ところ…舞子ビラ

近畿各府県より、一〇〇名近い施設長が参加され開催されました。今回は、従来の種別ごとの分科会から年令別の分科会に変更しましたが、討議も活発に行なわれ評判も良かったようです。内容については、後日報告したいと思えます。

★昭和五十七年度兵庫県施設長会議
開催さる

と き…十二月二・三日
ところ…宝塚ゆずり葉荘

三〇名近い施設長が参加下さり、実態調査をもとに今後の施設のあり方等について討議致しました。一泊という事、十一月に近畿施設長会を開催しているという事もあり、参加

職員リレー			400m×5 児童の部			400m×5 成人の部			種目
三	二	一	三	二	一	三	二	一	順位
神戸学園	播磨園	協和学園	さわらび学園	三田谷治療教育院	あけぼの学園	播磨園	ひのものと青年寮	陽気寮 Aチーム	チーム名
									タイム
			7分48	6分17	5分54	5分56	5分54	5分29	

★職員部会一泊研修について

昭和五十八年二月中旬に、恒例の一泊研修会が開催されます。行き先は、大阪金剛コーニになる予定です。参加費等詳細については、後日ご案内申し上げますので、一人でも多くご参加下さいますようお願い申し上げます。

編集後記

○明けてからおめでとうございます。昨年一年間は、協会設立二十周年という事で、記念事業も多かったのですが、皆様の多大なご協力を頂きまして無事にすぎました事心より厚くお礼申し上げます。五十八年は、不況の波をもろにうけ、福祉関係の仕事もむずかしくなっていくようですが、皆様方と力を合わせ、一步の後退もさせないよう努めてまいりたいと存じます。何とぞご協力の程よろしくお願い申し上げます。

○広く原稿を募集致しております。研究論文、学園行事関係、雑感、なんでも結構です。

ご投稿、心よりお待ちしております。

人数は少ないのではと、心配していましたが、皆様のご協力を得、盛会に終る事ができました事感謝申し上げます。